様式第６号

施策評価表

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（課長等）	29 年 9 月 30 日
２次評価日（部長等）	29 年 10 月 31 日

１ 施策の概要

施策名	文化・芸術の振興			コード	11-1
この施策の主な内容（細施策）	（1）文化施設の活用　（2）文化活動の促進支援				
第４次総合計画におけるこの施策の目的	芸術や伝統文化、歴史など市民が身近に接し、特色ある芸術文化を活発に行うことができるよう環境整備を図る。				
担当部課	部 教育部	課等	生涯学習課	作成者	小坂　英之

●施策の実施内容（DO）

２ 施策指標の達成状況

＊第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

	施策指標名	単位	26年度 実績値	27年度 実績値	28年度 目標値	28年度 実績値	28年度 達成率	29年度 目標値	30年度 目標値
①	美術考古館入館者数	人	10,297	10,416	12,000	10,205	85.0%	12,000	12,000
	指標説明	郷土の美術作品を公開し、文化向上と継承を図る。							
②	カノラホール入館者数	人	99,449	94,287	106,400	96,656	90.8%	107,700	109,000
	指標説明	舞台芸術作品鑑賞と市民の発表の場として利用促進する。							
③	蚕糸博物館入館者数	人	31,713	46,305	30,000	32,027	106.8%	40,000	50,000
	指標説明	糸都岡谷の歴史と伝統を広めるとともに、岡谷ブランド発信の拠点として利用促進する。							
③	イルフ童画館入館者数	人	32,232	33,163	27,100	36,513	134.7%	27,700	28,400
	指標説明	童画のまちづくりを推進するため利用促進する。							

３ 施策全体にかかる合計コストの推移

＊項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示　　単位：千円

	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
直接事業費	59,464	72,275	51,982	48,114
人件費	31,440	38,640	44,000	40,800
合計コスト	90,904	110,915	95,982	88,914

●施策の評価（CHECK）

４ 施策の現状評価

＊28年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

・美術考古館は、市民が心豊かなに学び集うことができる生涯学習の成果を発信する場、郷土の芸術・文化・歴史を顕彰し、地域に開かれた館、まちなかの賑わいや観光にも貢献できる施設として平成25年度に移転整備開館したが入館者数にほぼ横ばいとなっている。
・カノラホールは、工事等による休館等は無く通年使用できたこと、またオペラ御柱の開催により入館者数は増となった。
・蚕糸博物館は、平成２６年８月のリニューアルオープン当初、富岡製糸場の世界遺産登録という追い風もあり入館者も順調に推移し、平成２７年度は、大口の団体利用が多くあり入館者数も伸びたが、平成２８年度は、これらの大口の団体の利用が少なかったことにより入館者数は減となった。
・イルフ童画館は、平成２６・２７年度に実施した全国巡回展により武井武雄の認知度や人気が高まっていることや、人気の高い企画展等の開催により入館者数は増になった。

＊岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	文化施設がコンパクトな市街地に点在することにより、他施設との連携や回遊性が図られる。

岡谷市の弱み	人口規模に対し文化施設の維持管理への財政負担が大きい。

5 今後の外部環境の変化

＊29年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	地域の特色を生かした文化振興が全国各地で進められている。
不利に働くもの	公共施設総合管理計画により施設の維持管理・長寿命化が検討され、計画的な施設の改修が求められる。

●改善の内容（ACTION）／次年度の計画（PLAN）

6 平成30年度　施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

＊優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
＊見直しを行う分野　　＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	・美術考古館の更なる活性化に向けて「社会教育委員の会議」による提案がされた。提案された内容に優先的に取り組むとともに、周辺文化施設や地元商店街等と連携を進め、文化を核にしたまちづくりの推進を図る。 ・各施設での入館者増に向けての取り組みとともに、施設間及び民間事業者とも連携し、蚕糸博物館に訪れた観光客をまちなかに誘導し回遊性を高めるための施策を展開する。
見直しを行う分野	美術考古館と蚕糸博物館は開館後数年経過し、入館者が減少又は横ばい傾向にあるため、館の知名度を上げるＰＲに努める。

●30年度の優先度

＊方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付ける。

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標 指標名	成果指標 単位	成果指標 26年度	直接事業費 26年度	人件費 26年度	妥当性	方向性	優先度
							27年度	27年度	27年度			
							28年度	28年度	28年度			
							29年度	29年度	29年度			
1		公共施設	あり	博物館管理運営事業	施設稼働率	%	-	45,758	4,160	高い	継続して実施	B：現状維持
							100	54,925	11,200			
							100	36,378	16,000			
							100	36,671	16,000			
2		一般	なし	調査・活用事業	ワークショップ等の開催日数	日	150	227	3,360	高い	継続して実施	A：拡大
							130	271	2,800			
							103	315	2,800			
							150	378	2,800			
3		公共施設	あり	美術考古館管理事業	施設稼働率	%	100	9,396	9,600	高い	継続して実施	B：現状維持
							100	10,953	9,600			
							100	10,230	9,600			
							100	6,370	9,600			
4		一般	なし	博物館展示事業	一日あたりの入館者数	人	160	2,093	7,200	高い	継続して実施	B：現状維持
							154	492	3,200			
							109	407	3,200			
							-	-	-			
5		一般	なし	美術考古館学習事業	参加人数	人	250	129	1,040	高い	継続して実施	B：現状維持
							250	170	1,040			
							340	229	1,600			
							340	154	1,600			
6		一般	なし	美術考古館展示事業	1日の入館者数	人	25	371	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持
							45	149	2,400			
							42	117	2,400			
							35	150	2,400			
7		一般	なし	美術考古館展示事業（企画展）	1日の入館者数	人	40	1,261	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持
							40	1,876	2,400			
							42	1,299	2,400			
							35	890	2,400			

●30年度の優先度

＊方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付ける。

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標			直接事業費	人件費	妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	26年度	26年度	26年度			
							27年度	27年度	27年度			
							28年度	28年度	28年度			
							29年度	29年度	29年度			
8		一般	なし	体験工房管理事業	まゆ人形ワークショップ、出前講座の開催日数	日	24	229	1,280	高い	継続して実施	B：現状維持
							30	286	1,200			
							30	200	1,200			
							30	293	1,200			
9		一般	なし	企画展等開催事業	1日の入館者数	人	160	-	-	高い	継続して実施	B：現状維持
							157	3,153	4,800			
							131	2,807	4,800			
							100	3,208	4,800			
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												